

南山大学図書館報

ΔΥΝΑΜΙΣ

No.32

1997.10.1

感 想

桜井 健吾

今、三年生の演習で『マックス・ヴェーバー入門』という書物を輪読している。昨年まで三年生の演習は私の専門に合わせ、産業革命、エネルギー、人口変動、都市化といったことをテーマにしてきた。しかし、私ももう若くない、近代世界の構造といった全体的な歴史把握も試みてみたい、そんな気持ちになってきた。そのため、まずマックス・ヴェーバーから始めよう、マックス・ヴェーバーそれ自体を読むのは恐らく学生には辛いことだろう、というわけで「西洋の合理化過程を手引とする世界史」という副題を持つ上記の書物を選んだ。

その第1章は有名な「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」を取り上げている。この機会にと思い立ち、この書物の新訳を読んだ。ほぼ30年振り、学生時代以来のこと。あの頃の旧訳は非常に難解だった。そのことだけが思い出される。それに対し新訳はずっと読みやすい。とはいえ、決してすらすら読めない。しかし、それ以上にびっくりしたことがあった。

学生時代この書物を読んだ時、仮説の大胆さや複雑な文章表現に不思議な魅力を感じ、近代社会建設へ向けての使命感のようなものさえ与えられた。同時に、反発もあり、この仮説に挑

戦してみたい、そんな気持ちも起こった。

しかし、今回読みなおしてみても、このマックス・ヴェーバー仮説に自分への挑戦といったものも、魅力も感じなかった。私はまずそのことにびっくりした。なぜ、こんなことになってしまったのか、少し考えてみた。

あの頃「近代資本主義の労働エートス」というのは自明だと思われた。「労働が人生そのものの目的」といったことを疑ったことはなかった。

それから30年、私の方が変わってしまった。この人生で何か善きことを行いたい、とは私でも思う。労働はその一手段ともなりうる。しかし「労働それ自体が人生の目的そのもの」とはとて考えられない。今の私には、そのような考えは気違い沙汰としか思われない。なぜこうなったのか、私には不思議であった。私の体力が衰弱したからか、私の精神が萎縮したからか、私が怠け者になってしまったからか、それとも時代と社会そのものが変わってしまったからか。私にはわからない。しかし、私はこの変化に満足している。

(Kengo Sakurai : 経済学部 教授 桜井健吾)

南山宗教文化研究所

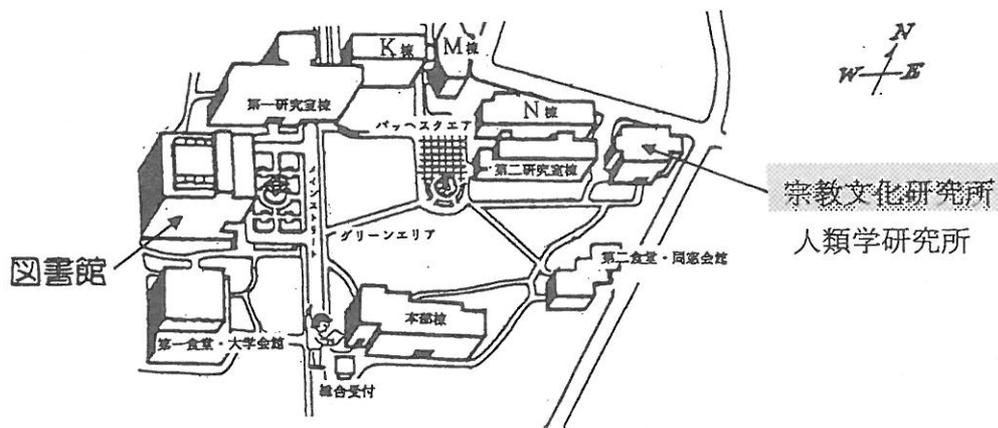
1974年に設立された宗教文化研究所には以下の三つの目的があります。

- (1) 宗教・文化一般、特に日本を中心とする東洋の宗教・文化に関する学際的研究。
- (2) キリスト教と諸宗教との相互理解の促進。
- (3) 研究者の養成。

この目的のために必要な図書と資料を管理しています。

宗教文化研究所はどこにあるのか？

N棟の東奥、人類学研究所と同じ場所にあります。



研究所の活動は？

- * 英文と日本語「研究所報」の編集
- * 諸宗教の対話を目的とするシンポジウム開催
- * 専門的な文献の収集
- * 外国や国内の学者を招待し、研究の場を提供
- * 国内外の学者との懇話会を提供
- * 東海地方研究者の研究例会の開催
- * 特に大学院神学科と協力し大学の授業として宗教に関する講義やゼミを行う
- * 学術雑誌 *Japanese Journal of Religious Studies* の編集
- * 専門書、学術書、シンポジウムの記録等、現在までに30冊以上の本の編集・出版
- * 各研究所員の個人的専門の研究

宗教関係の研究の図書と文献

様々な活動のなか、基本的に研究と出版物の活動を支えているのは専門図書と文献の収集です。研究所の地下室には基本文献（仏教の大正新修大蔵經とかチベット大蔵經、パリー聖典、ベトナム語の聖典、等）とジャーナル・雑誌のバックナンバーを保存しています。二階の西側の会議室には日本語の雑誌（215種）、東側会議室には国外の雑誌（238種）を閲覧できるようにまとめてあり、宗教関係の専門雑誌が豊富にそろっています。二階の中央には図書室があり、研究・編集に必要な専門書が置いてあります。1997年6月時点で外国専門図書6,452冊、内国専門図書7,798冊、学術雑誌3,475冊が保存され、日本・アジアの宗教と文化の研究に欠かせない文献がそろっています。

利用方法

要注意：研究所の図書室は研究所内の研究と編集の日常活動に必要なものですので、書籍は貸し出し禁止、研究所外への持ち出し（研究所員も含めて）厳禁となっています。特定の書籍を閲覧したり、コピーしたい場合は、研究所の事務室にご相談ください。

利用時間

月曜日から金曜日まで 午前9時—午後4時30分

但し、午前11時30分—12時15分はお昼休みとなります。

(Paul L. Swanson : 南山宗教文化研究所所員 文学部教授)

資料紹介 … Part1

日本国語大辞典

日本大辞典刊行会 小学館 1972-76年(20巻別冊1巻)

および 1979-84年(10巻)・・・縮刷版

※ 国語辞典というものは...

知らないことばって意外と多いものです。それは、名詞や熟語やことわざであったりします。初めて聞いたそのことばを「それ、どういう意味?」と思いながら引くのが“国語辞典”の基本の使い方です。また、手紙やレポートを書く時に知っているはずの漢字が思い出せず、文字通りことばを無くして役立てている人もいます。

なんといっても日本人なので、英語や独語の単語がわからなくて、英和辞典や独語辞典を引くことは始終あっても、国語辞典を引くことは案外少ないのかもしれませんが。また、折角辞典を引いても、辞典によっては満足する答えを得られないということも時々経験するかもしれません。

そんな欲求不満を解消してくれるうえ、簡単な漢字がわからず辞典を引く時のあの少し後ろめたいような気持ちも忘れさせてくれる**大満足の辞典**があるのをご存知でしたか? 今回は、その辞典、『日本国語大辞典』の紹介です。

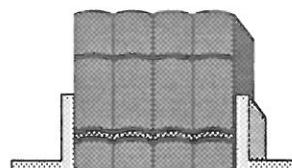
※ 日本国語大辞典というものは...

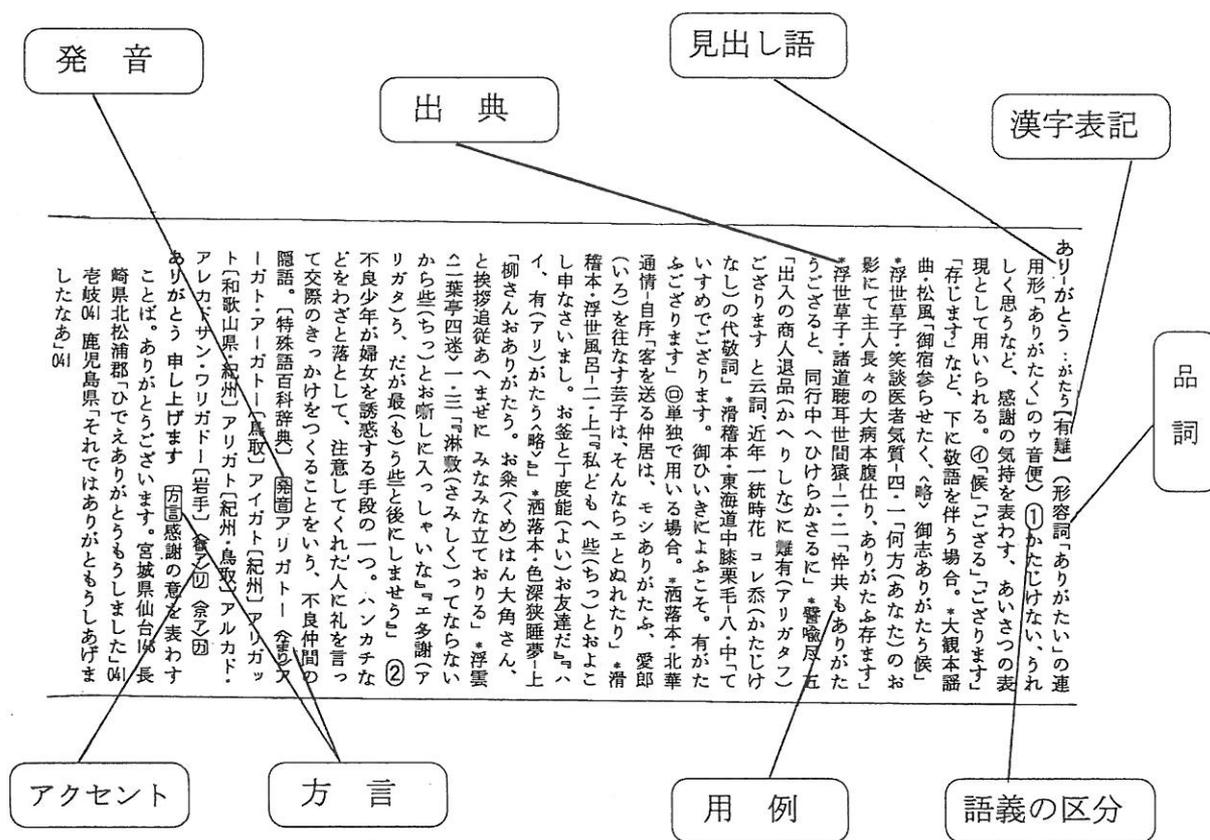
1939年に上田万年、松井簡治らの編集によって出版された『修訂大日本国語辞典』(5冊)をはじめ、既に出版されていた国語辞書や様々な分野の文献等から、語彙や用例を収集しておりその収録語数は約50万語にのぼります。これは『広辞苑』の約20万語に比べるとその膨大さが理解できるでしょう。(『広辞苑』は中辞典です。)

約50万語の内容は、普通語・古語・外来語・方言・俗語・隠語・慣用句・ことわざ、更に、人名や地名などの固有名詞、動植物名などの百科語彙までも含まれており、単にことばの意味を調べるだけではない**事典的辞書**だといえます。収録語数が多いのみならず解説量も最大で、また約200万もの用例が出典とともに示されていることも事典的要素を強めており、その用例の豊富さは他の辞書に比べ圧倒的です。

戦後出版された国語辞典の中では、最も規模の大きいものだといえるでしょう。

※縮刷版は、20巻本の内容をそのまま縮写し、サイズのみ小さく軽く新装されたもので全10巻にまとめられています。





*ことばによっては、反対語や語源などが記されています。

日本国語大辞典の1ページ目に発刊の辞が記されており、その冒頭には「国語辞典は一国の文化を象徴する。真の国語辞典の有無、あるいはその辞典の性格に、その国の文化の水準が反映するといつてよい。文化とことばとのかかわりを考えるとき、一国の文化を継承しこれを将来に伝達するために果たす国語辞典の役割は、きわめて大きい。」とあることから分かるように日本国語大辞典は、たかが辞典、されど辞典。タダモノではないのです。

皆さんも、是非一度この辞典をひもといてみてください。単にことばの意味だけでなく日本の文化や慣習までも理解が深まるかもしれません。

◎なお『日本国語大辞典』は図書館1階参考図書コーナーに所蔵されています。

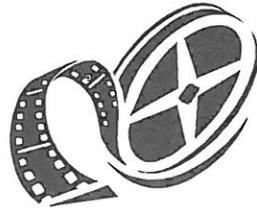
請求番号：R/813/178/v.1-20（縮刷版は R/813/178-1/v.1-10）

参考資料：『日本の参考図書』日本図書館協会 1980

『参考図書研究ガイド』全国学校図書館協議会 1987

（Takako Makino：閲覧・参考係 牧野多完子）

資料紹介 … Part2



Bibliotheca Shakespeariana

「シェイクスピアとその時代」

Microfiche

【MMF/B932/1(マイクロ室)】

西洋文学の巨人シェイクスピアとその時代背景に関する研究文献の一大集成。本集成は16世紀から現代におけるシェイクスピア関連文献2,000点、800,000頁をマイクロフィッシュに収録する包括的な文献集成であり、各文献を28の研究主題別に収録し、さらに研究主題が8つの分野に分類されており、シェイクスピアとその時代背景を研究するうえで、あらゆる文献要求への対応を可能としている。ただ、何分にも高額資料であるため、残念ながら目下のところまだ全部は揃っていません。

日本の会社史・マイクロ版

Microfilm

【MMR/335.2/1(マイクロ室)】

大手企業を中心に、日本の主力・中堅企業約1,000社が刊行する「会社史」約2,000点を収録するマイクロフィルム版コレクションで、9つの部門、1. 農林水産・食品製造・繊維工業・紙パルプ・窯業、2. 建設設備・化学工業・石油製品・ゴム製品・皮革製造、3. 金属製品・造船・鉄鋼、4. 一般機械・電気機械・自動車等、5. 電力・ガス・鉱業・非鉄金属、6. 鉄道・海運・陸運・航空・倉庫、7. 他製造・商業・不動産、8. 金融・証券、9. 生保・損保、に分けて収録されている。明治以来のわが国の産業・経営の歴史的経過を辿るうえでの必須の文献。今年度やっと全て揃いました。

Bibliothek des Deutschen Strafrechts

I. Alte Meister (16.-18. Jahrhundert) 全12点

「ドイツ刑事法学文献復刻叢書」

【326/644(書庫B2)】

現在原本では入手が非常に困難となっている19世紀を中心としたドイツ刑事学の重要な基本文献が網羅的に収録されている。第1期分は16～18世紀の継受期を中心とした古典文献12点で、普通法期刑法学の創始者であり、その後も長く刑事司法の発展に影響を与えたカルプツォフ(1595-1666)の主要著作2点、カルプツォフ後の重要な理論家であるベーマー(1704-1772)の主要著作2点も含まれている。本館には全巻揃っております。

(Hideaki Naito : 整理係 内藤 英明)

